

【研究種別欄、この欄は担当が修正する可能性があります】

## (1)オーラルフレイルに寄与する因子の解明と新たなリスク評価ツールの開発

理学療法学科 板垣篤典

### 研究の背景

- ◆ 加齢に伴う口腔機能の低下であるオーラルフレイルと生命予後を含む不良アウトカムとの関係性が指摘されている。
- ◆ その関連因子は明らかではなく、現在までにどのような介入がオーラルフレイルに対して有効であるのかを認識するためのエビデンスは不十分。

### 研究の目的

- ◆ オーラルフレイルの①関連因子、ならびに高リスク患者を同定するための②評価ツールを検討すること。

### 研究方法

- ◆ 地域在住高齢者より取得したデータを使用しオーラルフレイルの関連因子を検討。
- ◆ Oral frailty index (OFI-8) の合計点より社会参加に関連する点数を削除したものをOFI<sub>modified</sub>と定義し、その予測精度を検証。

### 成果

- ◆ 一日の会話人数がオーラルフレイルの有意な説明因子として同定された。
- ◆ OFI-8とOFI<sub>modified</sub>のオーラルフレイル予測精度に統計学的有意差を認めなかった